

エレクトロニクスで社会に貢献する

ROHM



24 あかりの花 (中国の昔ばなし)

働き者のトーリンが流した汗のしづくで、畑にユリの花が咲きました。花は毎日、歌を聞かせます。トーリンは、働くのが楽しみになりました。ある日、トーリンは、倒れていたユリを家の窓辺の石うすに植えました。十五夜の晩、仕事をしていたトーリンの前で、あかりの灯心から花が咲き、中から美しい娘が現れました。その代わり、石うすのユリは消えていました。それから二人は、昼も夜も一生懸命働き、裕福になりました。裕福になったとたんトーリンは怠け者になってしまい、娘がいくら働いて下さいと言っても聞きません。すると、再びあかりの花が咲き、現れた金鶏鳥に乗って娘は飛び去ってしまいました。売る物が無くなった怠け者のトーリンは、むしろの下から仲良く働く二人の姿を刺繡した布をみつけました。その絵を見てはっと目覚めたトーリンは、昔以上に一生懸命働きはじめました。やがて、十五夜の晩、仕事をしながら昔を思い出すトーリンの目から涙がぽたぽたこぼれ落ちました。石うすにこぼれた涙で、再びユリの花が現れました。そして、あかりの花が咲き、娘が帰ってきました。

参考図書：君島久子 再説 赤羽未吉 画 「あかりの花」(福音館書店)

ローム株式会社
www.rohm.co.jp

本社 / 〒615 8585 京都市右京区西院溝崎町21
TEL(075)311 2121 FAX (075)315 0172
<http://www.rohm.co.jp/>

第23話へ

純真な心にだけ咲く、ユリの花です。

ローム君の新・博物日記

世界昔ばなしを科学する

このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

●男女のドラマが、ちょっと違います。

「あかりの花」は、中国西南地方貴州省に暮らす少数民族、苗族(ミャオゾク)に伝わる昔ばなしです。苗族は、歌と刺繡で有名な民族。若い男女が歌のやりとりをしながら結婚相手を選ぶお祭りや、女性が花嫁衣装に自分で刺繡を施したもの身にまとう風習が残っているんですって。「あかりの花」でも、ユリが歌ったり、刺繡が登場したりしています。この昔ばなしは、タブーを犯した男性から女性が逃げていく構成です。ここまでユリをツルに置き換えれば日本の「つる女房」によく似ています。しかし、男性が改心すれば女性は戻ってくるところに、強い教訓性があります。日本の昔ばなしでは、このような形はまずありません。この違いは、中国に儒教が浸透していたことに関係があるようです。

●ユリの花言葉は「純潔」。

「あかりの花」でユリの化身の娘が純真・無垢であったように、清らかなイメージのユリ。白いユリは「純潔」という花言葉で有名です。この花言葉は、キリスト教の聖母マリアに捧げる花としてのイメージが日本に伝わったものだそうです。ところで、そもそも花言葉というものは、なぜあるのでしょうか。花に象徴的な意味を持たせるという行為は、洋の東西を問わず古くからありました。最も一般的なのは西洋の神話や伝説から由来したもの。しかし、

その他にも、色、形、香りなどその由来はさまざま。実は花言葉って、「誰が何故、どう決めた」かはっきりしていないのが現状です。同じ花でも国によって全く意味の違う花言葉がありますし、新種の花などは案外自由に決められているのだと。理由はともあれ、その花のイメージを大きく左右する花言葉を知って花を贈るのはとても素敵なことです。

●実はユリって繊細なんです。

凛とした美しさを持つユリですが、実は非常に繊細な植物。ユリは球根植物です。球根は本来乾燥した地域に適応するために進化した形なので、多湿な気候の東アジア原産のユリは、珍しい性質を持った球根植物といえるでしょう。しかし、ユリが乾燥に強い植物かというと、なんと弱いのです。普通の球根は球根自体を乾燥から守る皮があるのですが、ユリの球根の場合はナゼかそれがあまりません。しかも多すぎると水にも弱い。だからユリは、山の尾根や海岸の水はけが良い斜面に咲いていることが多いのだと。またユリは、ウイルス性の病気にかかりやすく、育成するときはウイルス病媒介するアブラムシをこまめに防除することが重要となります。繊細なユリをそばに置きたければ、昔ばなしのように、こつこつ真面目に接し続けないと、すぐに失うことになるんですね。

昔ばなし監修／昔ばなし研究所 所長 小澤俊夫
取材協力／大阪府立花の文化園 竹田義

ゆめがあふれるあしたのために、LSIのロームです。

第25話へ